

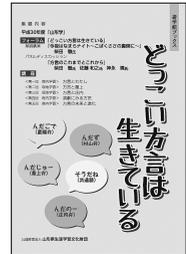
〈新刊紹介〉

公益財団法人山形県生涯学習文化財団

『遊学館ブックス』

『どうい方言は生きている』

林 直樹



本書は、平成30年度「山形学」として行われた講座「どっこい方言は生きている」の記録を増補・改訂したものである。以下、収録された題目と内容を記す。

初回に行われたフォーラムでは、基調講演「今夜はなまらナイトくこばくささの裏側に〜」として、柴田徹氏（NHKシニアアナウンサー）から伝説的ラジオ／テレビプログラム誕生・受容の秘話が紹介される。それに関連したパネルディスカッション「方言のこれまでとこれから」では、パネリストの佐藤和之氏（弘前大学教授）から山形における方言の変遷について述べられ、神永曉氏（元日本国語大辞典編集長）から『日本国語大辞典』に掲出されている方言の解説がなされる。最後に三者による活発な質疑応答も行われている。

続く講座として、「第一回 方言と私」では、参加者同士の話し合いと発表が行われ、それに対して加藤大鶴氏（跡見学

園女子大学准教授 からさまざまな解説が加えられる。「第二回 方言と最上」では、中澤信幸氏（山形大学教授）・三浦和枝氏（最上地域史研究会幹事）から、新庄・最上を中心とした山形方言の特徴が述べられ、新庄ふるさと歴史センターに見学に訪れる様子も収められている。「第三回 方言と庄内」では、志田徳久氏（元三上トピア創造委員会委員長）・黒羽根洋司氏（郷土史研究者）、白崎映美氏（歌手）から、自身の体験を交えて庄内方言の特徴が語られる。「第四回 演劇にみる方言」では、下館和巳氏（東北学院大学教授）から東北弁でシェイクスピアを上演する「シェイクスピア・カンパニー」の取り組みが、今田由美子氏（俳優）からドラマにおける方言指導や自身が演じた方言キャラクターについて語られる。「第五回 方言の未来と進化」ではミッチーチェン氏（タレント）から方言を取り入れたタレント活動の工

夫が語られ、田中ゆかり氏（日本大学教授）から日本社会における方言の価値の変遷について解説がなされる。ここでは、ミッチーチェン氏扮する「MC GATA」と「BANKING」による「アガスケノススメ」のパフォーマンスも行われる。

紹介者は第五回の講座に参加し、躍動的な進行と登壇者のマッチングの妙、さらに参加者の能動的な姿勢に感嘆した。本書を読んで、そのような雰囲気はコーディーネーターと参加者双方の継続的な努力により構築されたものであることに気づかされた。また、「方言について語る」ことは、知的好奇心をかき立てる行いであると同時に、何より楽しめる営みなのだということも再確認させられた。

なお、本書の末尾には山形学講座の修了証書も付されている。本書を通してこの修了証書を受け取った暁には、山形の方言、さらには方言を利用した表象や文化活動についての知識が得られ、確かに「方言は生きている」ことを実感できるだろう。

（二〇二〇年一月三十日 公益財団法人山形県生涯学習文化財団刊 A5版・並製・二九三頁 一〇〇〇円＋税）
（はやし なおき、本学専任講師）